

平成 28 年度

事業計画書

公益財団法人 馬事文化財団

目 次

I 根岸競馬記念公苑における事業	1
1 馬の博物館事業	1
(1) 馬に関する博物資料の展示	1
(2) 馬に関する博物資料の調査、研究	1
(3) 出版事業	2
(4) 馬に関する博物資料の収集、保管	2
(5) 研究交流・外部協力及び研修等の実施	2
2 馬展示事業	2
(1) 馬の展示	2
(2) 馬事イベントの開催と外部協力	3
(3) 厩舎管理等	3
3 馬と馬文化に関する普及活動及び学習支援	3
(1) 講座・講演・ワークショップの開催	3
(2) 団体誘致の推進	3
(3) 行政・学校教育機関や地域自治会等との連携	3
4 馬文化保存事業	4
5 公苑管理業務	4
II JRA競馬博物館における事業	4
1 JRA競馬博物館事業	4
(1) 馬及び競馬に関する展示	4
(2) 馬の学び舎 ミュージアム・ホールでの展開	5
(3) 競馬に関する博物資料の調査、研究	5
(4) 出版事業	6
(5) 競馬に関する博物資料の収集、保管	6
(6) 来館者への案内業務等	6
(7) 馬に関する普及活動及び学習支援	6
III 競馬振興会館 (Gate J.) における事業	6
1 競馬振興会館事業	6
(1) 馬の文化及び競馬に関する展示と各種情報の発信	6
(2) イベントの実施	6
(3) 馬の文化及び競馬に関する各種映像の放映	6
IV 広報活動	7
V JRA賞馬事文化賞候補作品の情報収集	7

平成 28 年度 事 業 計 画

平成 28 年度においては、当財団の定款第 4 条の目的を達成するため、根岸競馬記念公苑 馬の博物館をはじめとする財団各施設等において効果的な展示、イベント等を行うとともに、それらを広く告知、広報し学術及び文化の発展に寄与します。特に、同年度は馬事文化財団創立 40 周年及び根岸競馬場開設 150 周年の記念の年に当たるため、年間を通じて充実した展示や馬事文化及び馬事普及イベントを開催して参ります。加えて、周年記念レースの施行や記念映像の制作・放映等により、多方面にて財団・各博物館施設の告知・周知を図ります。

なお、根岸競馬記念公苑、馬の博物館及び J R A 競馬博物館、Gate J. 新橋・梅田と主要展覧会についての、来苑・来館者見込みを定め、その実現に向けて努力して参ります。

I 根岸競馬記念公苑における事業

1 馬の博物館事業

(1) 馬に関する博物資料の展示

馬文化と競馬文化に関する知識の普及と強化を図るため、これまでに蓄積した馬に関する博物資料を、最良の状態、様々に工夫をして展示し、鑑賞に供します。特に平成 28 年度は周年を記念して、特別展を 2 回、現代アートの企画展を 1 回行う他、その他多様な内容のテーマ展や共催展を年間を通じて実施します。

また、特別展示等に即した各種講座・講演会も通年で企画します。

① 春季企画展『山口晃と馬』

馬の文化にかかわる絵画類を背景に置き、現代大和絵師による馬の絵画を展示します。

② 春季特別展『根岸競馬場開設 150 周年記念 ハイカラケイバを初めて候』

わが国初の本格的競馬場“根岸競馬場”の沿革から、活躍馬・人、天皇賞のルーツである御下賜競走の概要、そして今日の近代日本競馬の礎となり、承継されている数々の遺財などを取り上げ紹介します。

③ 秋季特別展『信長の馬・秀吉の馬』

戦国末期から江戸初期まで、信長や秀吉により社会が大きく変化する時代に、飛躍的に拡大した人や物の輸送にかかわる馬の姿を、様々な視点から御覧いただきます。

④ テーマ展示『徳川吉宗の馬術復興』『競馬レトロポスター展』

『ゆるキャラ&マスコット紹介展（北海道・東北編）』等

歴史、民俗、美術、自然、競馬といった分野のテーマを設けての展示の他、美術大学との共催、海外の著名写真家による馬の写真展などを行います。

常設展示については、来館者の馬への理解が深まるように、収蔵品や体感機器・体験機を活用した効果的な展示を行います。

(2) 馬に関する博物資料の調査、研究

馬の文化について、自然科学（進化・品種等）、人文・社会科学（歴史、

考古、民俗、美術工芸、馬術・乗馬、競馬等)の各分野において、広く文献収集・聴取・実地調査を行うとともに、調査結果の分析・研究を行います。

(3) 出版事業

馬の文化についてより一層の理解醸成を図るため、各種印刷物の刊行及びビデオ映像の制作を行い、広く配布、放映します。

- ① 特別展等については、来館者の多様な関心に応じて、展示内容の理解が深まるように展示内容の紹介を中心とした図録・リーフレットを作製します。
- ② 馬に関する博物資料の調査、研究その他の活動の成果は『馬の博物館研究紀要』あるいは小冊子等を刊行し発表します。その他、講演等の機会をとらえて、外部に発表します。
- ③ 当財団創立40周年を記念して『所蔵品図録』(完全版)及び『所蔵品映像図録』(主要版)を刊行し、これまでに収集・蓄積した馬事博物資料の写真と映像を公開します。
- ④ 刊行物は、全国主要博物館、美術館、図書館、大学、JRA各施設及び競馬サークル各団体等に配布します。

(4) 馬に関する博物資料の収集、保管

馬に関する博物資料や情報の収集及びこれらの保管、保持に努めます。また、収集した博物資料については「博物資料管理システム」に情報を逐次入力し、効率的な情報管理を図るとともに、文化庁が開始した文化遺産オンラインデータベースを活用することにより、所蔵品情報のオープン化に努めます。なお、博物資料の保管にあたっては、文化財保護の基本的観点から、保存環境を整え、将来への継承に備えます。

(5) 研究交流・外部協力及び研修等の実施

- ① 調査研究活動の成果発表により、広く学術の発展に貢献するとともに、学会・研究プロジェクト等に参加し、研究交流を促進します。
- ② 全国の博物館における馬の文化にかかわる展示・出版・映像等の企画に協力し、内容の向上に寄与することを目指します。
- ③ JRAや競馬サークル各団体のみならず、全国の博物館・美術館や公共機関等の要請に応じ、馬文化及び競馬の歴史等について展示解説・講義等を実施します。
- ④ 日本博物館協会、全国美術館会議、神奈川県博物館協会等の行う会議、研究会、専門部会に参加するとともに、各地の博物館、教育機関と資料の相互活用及び情報交換を行います。
- ⑤ 大学の学芸員課程の依頼に応じ、実習生を受け入れて指導を行うとともに、獣医・動物看護関連学校の研修、見学も依頼に応じて受け入れます。

2 馬展示事業

(1) 馬の展示

身近に接する機会が少なくなっている馬について、博物館事業の一環として、ポニーセンターにて繋養展示します。展示用馬は、適切な更新計画に基づいて多品種の馬を繋養し、施設内での放牧や騎乗等の他、日常の飼養管理の様子を紹介します。また、品種の中には貴重な日本在来馬種を揃えて、保

存活動の一助とします。

(2) 馬事イベントの開催と外部協力

馬事普及活動の一環として、展示用馬を活用した馬事関連イベントを主催するとともに、広く外部団体等にも同馬を使った活動や催事等への協力を行います。

① 馬の博物館の入館者を対象として、定期的に体験乗馬及び馬車の試乗会等やふれあいタイムを行い、来苑者が実馬にふれ合える機会を設けます。

また、春季・秋季の2回、周年記念として通常年よりも規模を大きくし、馬事伝統芸能の披露、アトラクションホースの演技等を中心に据えた馬事イベントを開催して、より多くの来苑者に馬とふれ合っていただきます。春季の『馬とあそぼうこどもの日』は、5月5日(木・祝)のこどもの日を中心にしたGW期間中の数日間にわたり横浜市の協力を得て根岸森林公園エリアも活用して開催します。秋季の『馬とのつどい 2016』は、10月30日(日)に内容を充実させた上で開催します。

なお、両イベントとも行政や他団体、地元マスコミとの十分な連携により周知等に努め盛り上がりを図ります。

② JRA及び競馬サークル各団体の他、教育機関・公共機関が主催するイベント等において、展示馬の出張等の協力を行い、馬の魅力を広めるとともに当財団・両博物館の普及・展示内容やイベントの周知に努めます。

③ 展示用馬の管理や運動の他、馬事関連イベントについて、自発的な協力活動を行う愛馬少年団の要請に応じて、安全を確保した上で、適切な指導を行います。

(3) 厩舎管理等

展示馬の健康管理及び事故防止に万全を期すとともに、厩舎内外の衛生管理並びにお客様への快適な展示環境の提供に努めます。

3 馬と馬文化に関する普及活動及び学習支援

博物館機能と展示用馬を最大限に活用し、一般の来苑者はもちろんのこと、団体での来苑者も積極的に受け入れます。また、展示内容やワークショップ・体験乗馬等の充実を図ることにより、学校教育・課外授業・生涯学習、観光等幅広い分野のニーズに応え、馬と馬文化に関する多様な体験や学習ができる機会を設けます。さらに、来苑・来館者がリピーター・サポーターとして継続的に、生涯学習が行える拠点となるように努めます。

(1) 講座・講演・ワークショップの開催

ワークショップに加え、展示に合わせた各分野の講座・講演会を年間を通じて開催します。

(2) 団体誘致の推進

横浜市コンベンションビューロ(観光誘致担当)や地方旅行代理店と連携して、地方等からの修学旅行や団体旅行を誘致します。また、横浜市周辺の観光施設等と共に馬の博物館を入れた観光コースを策定し、旅行代理店等にセールスすることで、団体旅行者の取り込みを図ります。

(3) 行政・学校教育機関や地域自治会等との連携

横浜市役所や横浜市中区役所、教育委員会、近隣の小中学校や地元自治会

等の協力を得て、遠足・社会見学・職場体験やリクレーション等の機会を定期的に提供して参ります。小中高生向けには、学校教育と合致した学習プログラムを用意して、体験学習・生活学習に供します。また、夏休みには自由研究に適した横浜の歴史や馬との関わり、開港の歴史と競馬等に関するレクチャーや馬に関する相談コーナー、工作教室等のワークショップの開設などを強化して実施します。幼児等を対象としては、馬の写生会等、馴染みやすいイベントを行います。小中高生には年間を通じて土曜日を無料入館日とし、児童・生徒・学生の来館を促進します。

4 馬文化保存事業

馬にちなんだ日本の伝統行事や祭事の保存・振興及び国内在来馬8種の保存を図るための事業を実施します。また、公益社団法人日本馬事協会と連携し、競馬場やイベント会場等で、当財団繋養の野間馬ミカンと北海道和種（道産子）ゆきを活用した『在来馬とのふれあい&保護チャリティー』イベントを継続して実施します。

また、平成27年度に制作した“馬の祭”と“在来馬”の映像22本（13分30秒／1本）を組み合わせて、JRA競馬博物館の「馬の学び舎 ミュージアムホール」で継続的に放映する他、馬の博物館・Gate J. やグリーンチャンネルの当財団提供番組『悠久の馬』シリーズにおいて放映することにより、広く保存や保護の啓発に努めます。

5 公苑管理業務

来苑者の憩いの場として、また、近隣の児童・生徒等の教育や生涯学習の場として、広く利活用されるよう、年間を通じて計画的に種々の草花や樹木を整備し、自然環境保持に努めるとともに、案内看板や遊具・備品等の適切な改善に努めます。

II JRA競馬博物館における事業

1 JRA競馬博物館事業

(1) 馬及び競馬に関する展示

① ギャラリー

前年から引き続き『創設60回有馬記念展』を開催します（1月まで）。フジノオーが「グランドナショナル」に挑戦して50年を迎えることから、『障害競走の歴史』を開催し、日本の障害競走における名馬や変遷を紹介します（1月～4月）。

春季特別展として、三冠馬を紹介する『三冠馬展～世代の頂点に輝いた優駿たち～』を開催します（4月～6月）。

武蔵野美術大学と連携した展示『UMARTs 2016』を開催します（7月～9月まで）。

秋季特別展は、馬の博物館移動展として『根岸競馬場開設150周年記念ハイカラケイバを初めて候』を開催し、“根岸競馬”の沿革と活躍人馬の紹介に加え、JRA競馬博物館オリジナル展示として、天皇賞のルーツで

ある御下賜品競走と天皇賞最多勝記録保持者である武豊騎手との縁、などを紹介します（10月～翌年1月）。

その他にも、タイムリーな話題等についての展示等も適宜実施します。

② テーマコーナー

前年から引き続き『馬の意匠展～日本の馬文化の広がり～』を開催します（2月まで）。

JRA賞の受賞馬・受賞者を紹介する『2015年度JRA賞展』を開催します（2月～3月）。

五街道の名称が制定されて300年になることから、『街道と馬展』を開催し、甲州街道の府中宿と交通・輸送の担い手であった馬たちの姿を紹介します（3月～6月）。

馬事文化財団創立40周年を記念し、『JRA競馬博物館 所蔵資料展』を開催し、所蔵する貴重な資料について展示します（7月～9月）。

同様に『馬の博物館 所蔵資料展』を開催します（9月～翌年2月）。

③ 特別展示室

ギャラリーにおける春季及び秋季特別展と併せて展示を行います。

④ エントランスホール

『第35回ジャパンカップ優勝馬展』、『2016年度新人騎手紹介展』、『第83回日本ダービー優勝馬展』、『第36回ジャパンカップ優勝馬展』を開催します。その他、その時々話題を集めた騎手や競走馬等に関する展示を随時行います。

⑤ 競馬及び馬に関する常設展示

メモリアルホールでは顕彰馬及び顕彰者について、各展示室では馬学・競馬の歴史・競馬のしくみ及び日本と世界の競馬の歴史について、実物資料やパネル説明等にて展示を行います。また、体験型展示機器として、「レーシングシミュレーション」、「発馬機（JSS30型）」、「ライディングビジョン」、「サラブレッドサイアーライン」、「アラウンド・ザ・ワールド」など13種を設置します。

⑥ 移動展示及び他団体主催展示への協力

JRA各施設及び競馬サークル各団体の要請に応じて、競馬に関する移動展示に協力します。また、他の団体等が主催する、競馬及び馬の文化の普及に資する展示等について協力します。

(2) 馬の学び舎 ミュージアム・ホールでの展開

平成27年10月に映像ホールを改修しリニューアルオープンした『馬の学び舎 ミュージアム・ホール』は、展示・映像・常設展示の各コーナーで構成されています。展示コーナーはエリアを3分割して博物資料の実物及び学術資料のパネルを展示し、時期によってエリア毎の企画展示を行います。映像コーナーでは、150インチ中型映像装置で平成27年度に制作した“馬の祭”と“在来馬”映像を上映いたします。常設展示コーナーには、等身大の馬像（ばん馬・サラブレッド・日本在来馬）を設置しています。また、必要に応じて、ステージを設置してイベントを行うなど多目的に活用します。

(3) 競馬に関する博物資料の調査、研究

企画展示の実施に当たり必要な文献収集・聴取・実地調査を行い、展示へ

の反映を行います。

(4) 出版事業

馬及び競馬文化についてより一層の理解醸成を図るため、各種印刷物の刊行及び映像の制作を行い、広く配布・放映します。

(5) 競馬に関する博物資料の収集、保管

競馬に関する国内外の博物資料を調査し、体系的に収集、保管に努めます。また、収集した博物資料については、「博物資料管理システム」に情報を逐次入力し効率的な情報管理を図ります。

(6) 来館者への案内業務等

来館者に競馬の魅力を体感していただくため、館内に展示物や競馬に関する知識等を習得したインストラクターを配置し、館内案内や体験機器の説明等を行います。なお、体験機器については安全かつ円滑な運用を図るため、適切な点検等を行います。

(7) 馬に関する普及活動及び学習支援

競馬開催日の来館者はもちろんのこと、平日においても一般及び団体の来館者を積極的に受け入れます。また、展示内容やワークショップの充実に加え、平成 27 年度秋にリニューアルオープンした『馬の学び舎 ミュージアム・ホール』と平成 28 年度に新設される東京競馬場乗馬センター（アトラクションホース繋養）との連携により、学校教育・課外授業等のニーズに応え、馬文化に関する多様な体験や学習ができる機会を設けます。

Ⅲ 競馬振興会館（Gate J.）における事業

1 競馬振興会館事業

(1) 馬の文化及び競馬に関する展示と各種情報の発信

年間 6 回の予定で実施するテーマ展示及び常設展示等を通じて、馬の文化と競馬に関する知識の普及と強化を図ります。また、当財団創立 40 周年及び根岸競馬場開設 150 周年のイベント等に関するタイムリーな情報について年間を通じて発信し、関心の醸成と知識の普及を図ります。

(2) イベントの実施

G I レースを中心に、Gate J. 内スタジオにおいてトークイベントや検討会等を開催し、レースに関する多種多様な情報提供のみならず歴史的な背景等についても紹介します。

また、Gate J. 出張イベントとして、競馬場、ウインズ、馬の博物館、JRA 競馬博物館等の施設で、イベントやトークショー、展示等を実施するとともに、当財団創立 40 周年及び根岸競馬場開設 150 周年の記念イベント等も行います。なお、日本在来馬等を活用した、『在来馬とのふれあい&保護チャリティー』イベントも併せて実施し、馬文化の普及と在来馬保存活動に努めます。

(3) 馬の文化及び競馬に関する各種映像の放映

JRA や当財団で制作した映像を最大限に活用し、それらを Gate J. 大型モニターやグリーンチャンネル等で放映することにより、広く馬の文化に関する知識の普及と競馬の健全な発展及び Gate J. と財団の広報に努めます。

特に平成 28 年度においては、根岸競馬開設 150 周年を記念してテーマ性のある映像を制作し、グリーンチャンネル等で放映します。

IV 広報活動

馬の博物館と J R A 競馬博物館及び Gate J. の各種情報を告知するため、財団ホームページ及び J R A ホームページ、各配布物（ポスター・チラシ・パンフレット等）を活用するとともに、ターフビジョン・場内 I T V、グリーンチャンネル等では映像による告知を図ります。なお、平成 28 年度は財団ホームページに、根岸競馬場開設 150 周年の特設記念サイトを設置し、年間を通じて適時更新していきます。

また、行政や近隣の公共機関・交通機関及び他の観光団体や博物館と連携し、各種案内等の広報を行うとともに、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等、各媒体に積極的な情報提供と適切な媒体展開も行って参ります。

V J R A 賞馬事文化賞候補作品の情報収集

J R A から業務委託を受け、海外情報も含めた J R A 賞馬事文化賞にかかわる情報の収集等を行います。